

1. 学校教育目標

- | |
|--|
| ①常に成長を目指し努力し続けられる人物（自立）
②世界で活躍できる能力を有した人物（挑戦）
③謙虚に自分を見つめ喜んで奉仕できる慈愛に満ちた人物（奉仕） |
|--|

2. 本年度に重点的に取り組む目標・計画

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自らを律し、他と協調し、他を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を持った生徒を育てる。 ・6年間を大人になるための準備期間として、責任ある市民として自己決定・自己判断ができるよう論理的に突き詰めて思考する力を育てる。 ・主体性を持って行動できる生徒を育て、学習面・生活面でも他律から自律へ切り替える。 |
|--|

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	取組状況
学力形成 学習指導 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックに基づいて目標を共有し、質の高い授業を実施した。 ・「探究授業」を拡充し、従来6展開であったものを10展開に広げた。加えて、主体的・対話的で深い学びを行えるよう、教科融合授業を実践。教科・科目という垣根を越えて、幅広い複眼的な視点から物事を見つめられる能力を育成した。 ・グローバル社会への対応の一つとして、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの強化のため全学年でネイティブの授業を実施した。 ・生徒が一人一台所有するPCをはじめとしたデジタル端末を活用し、教員・生徒双方向での教材・課題の配信・提出、各生徒の進捗状況管理、グループでの意見交換などを実践し、ICTに関わる能力の向上を目指した教育に取り組んだ。
人間形成 生活指導 各学年の取組 自治活動 学外活動	グローバル社会で必要とされるスキルを育むことを目的として、以下の取組を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・各学年の取組 中学1年 国際理解教育、SDGs、中学2年 ボランティア、キャリアプログラム、いのちの授業、中学3年 研究論文、高校1年 インターンシップ、『進路から進学へ』、高校2年 『学校のリーダー』、と精神的な発達段階に合わせて活動した。 ・生徒の自治活動 生徒会・委員会・クラブ・体育祭・学園祭・など生徒が主体とな

	<p>って運営した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外活動（他流試合） 教育の柱である学外交流活動を積極的に推進し、350を超える活動に生徒たちが挑戦した。国際哲学オリンピック世界大会、化学グランプリ 2023、俳句甲子園全国大会、日経ストックリーグ、科学の甲子園ジュニア全国大会、Stanford-e-Japan Program、Harvard International Review Academic Writing Contest など様々な分野で活躍した。
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会を定期的実施し、生徒の状況をより良く知ってもらい、学校の方針についての理解も深めてもらった。 ・学年通信を月 1 回程度発行し、連絡事項の徹底、生徒自らの言葉で語る行事報告など学校と家庭の結びつきを強めた。 ・ホームページにて、一般の方々にも学校のことを理解してもらえよう学習面・生活面についての記事を、原則平日に毎日掲載し、常に最新の情報をトピックスとして発信した。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校管理システムにより生徒の登下校の状況を把握し、生徒の安全を図った。 ・いつ起こるか分からない災害への備えとして、避難訓練を 4 月と 9 月に実施した。 ・年 3 回の施設点検実施により施設の保守を行い、安全管理を行うとともに快適な環境整備を実施した。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・8 月と 3 月に全教職員を対象とした校内研修を実施した。外部講師を招いてのインターネットにおける人権問題について考える研修、中学入試から大学入試に至るまでの校務主任を講師とした研修、グループに分かれての学力形成、人間形成に関するワークショップを実施するなど、多岐に渡る研修の機会となった。 ・最先端の ICT 教育を実践すべく、「ChatGPT」やデジタル地球儀「Sphere」の活用方法を研究し、教育活動に生かした。 ・新任教員に対し校長・管理職・校務主任・学年主任・担任を講師として年間にわたり新任教員研修を実施した。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ精神に富み、世界を舞台に活躍する生徒たちを支援すべく「前田若尾記念奨学金」を創設し、海外大学に進学する生徒への奨学金制度を新たに設けた。 ・翌年に向かえる創立 100 周年に向けて、在校生の「100 周年HP委員会」を発足し、活動を行った。 ・国際交流について、ジャパンメトロポリタン模擬国連大会を主催し、対面形式で実施した。国内・海外から 52 校、439 名が参加する国際的な会議となった。

	<p>・海外研修・留学プログラムを完全に再開し、留学（7プログラム）24名、語学研修（8プログラム）126名が参加した。また、海外大学開催の模擬国連への参加。オックスフォード大学模擬国連に8名、ハーバード大学模擬国連に6名が参加した。</p>
--	---

4. 総合的な評価結果

教育内容のブラッシュアップを常に行い、生徒たちが主体的で深い学びを行えるよう、本年度も新しい取り組みを多く実践した。授業内でのみで行っていた定期考査の振り返りを、考査終了後すぐに「特別授業」としてカリキュラムを組み、学年ごとに全クラスで実践した。また、知的好奇心を育むべく、探究活動を深化させ、生徒たちが希望する講座ごとに分かれ、自らの興味関心のある学びを深められるよう多種多様な講座を開く取り組みを行った。このようなソフトウェア面の充実に加え、ハードウェア面では1階の **TEA LIBRARY** にインタラクティブデジタル地球儀「**Sphere**」を設置し、生徒たちの探究心に応えられる教育環境を創造した。人間形成の面においては、生徒たちが自治活動を通じて自己肯定感が持てるよう、学校行事や部活動、学外交流活動の支援を積極的に行った。生徒たちの能動的な行動は、留まることなく広がり続け、挑戦の精神を持って、自己の可能性を試していることが、過去最多となった学外交流活動の参加件数、参加人数に表れている。上記の取り組みから、生徒たちのリテラシー能力及びコンピテンシー能力を大きく伸ばすことができた。